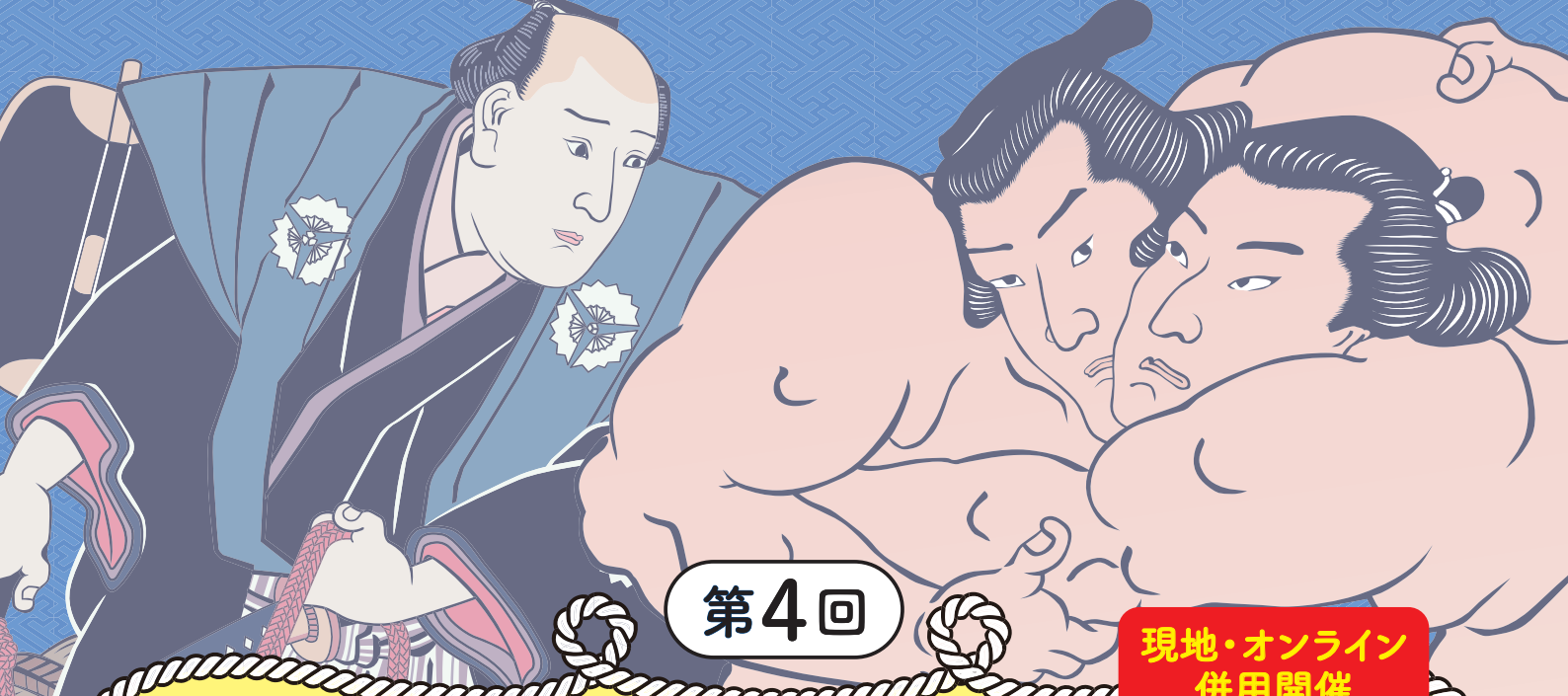

第4回

現地・オンライン
併用開催

福祉用具専門相談員研究大会

持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割

～福祉用具サービスにおける科学的な介護の実践～

プログラム集

◆プログラム …… P1
◆特別講演 …… P2
◆ランチョンセミナー …… P3～4
◆発表者一覧 …… P5～7
◆演題と要旨 …… P8～18

※本プログラムでは、2023年5月18日時点の情報をお知らせしています。
当日のプログラム内容について、一部変更の可能性がございます。

第4回 福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

第４回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

日　　程：2023年（令和５年）６月22日（木）
会　　場：KFCホール（東京都墨田区横網1-6-1）　※オンライン併用

大 会 長：小野木 孝二（日本福祉用具供給協会 理事長）
副大会長：記虎 孝年（関西シルバーサービス協会 理事長）
大会テーマ：持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割
～福祉用具サービスにおける科学的な介護の実践～

※当日のプログラムは変更となる可能性があります。予めご了承ください。

2023年 6/22（木）	第一会場：3階KFCホール	第二会場：11階 Room111	第三会場：11階 Room113
9:00			
9:30	（受付）		
10:00	10:00～10:30 開会式		
10:30	10:30～11:30 特別講演 »P2		
11:00			
11:30			
12:00	（休憩）	11:40～12:20 **ランチョンセミナー1** »P3	11:40～12:20 **ランチョンセミナー2** »P4
12:30		（会場準備）	（会場準備）
13:00	12:40～14:05 **口述発表 1** 「効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働」（勝平座長） »P8-9	12:50～14:05 **口述発表 2** 「福祉用具安全利用に向けた取組」（淵上座長） »P10-11	12:50～14:05 **口述発表 3** 「経験３年未満相談員の福祉用具導入事例」（畠山座長） »P12-13
13:30			
14:00	（休憩）	（休憩）	（休憩）
14:30	14:25～15:50 **口述発表 4** 「科学的な介護の実践」（山下座長） »P14-15	14:25～15:50 **口述発表 5** 「地域・多職種連携・事業所の取組」（髙砂座長） »P16-17	14:25～14:55 **老健事業特別セミナー** 14:55～15:35 **老健事業報告** »P18
15:00			
15:30			
16:00	（休憩）		
16:30	16:10～17:30 **シンポジウム** **閉会式**		
17:00			
17:30	（休憩）		
18:00	17:45～19:15 **懇親会** （2階KFCホール2nd）		
18:30			
19:00			
19:30			

・３会場ともオンラインでの聴講が可能です。
・当日は第一会場（３階KFCホール ホワイエ）にてメーカー様のブース出展を予定しております。
【出展企業】（50音順）
RT.ワークス株式会社、株式会社イーストアイ、株式会社ケープ、シーホネンス株式会社、
株式会社タイカ、パナソニックエイジフリー株式会社、フランスベッド株式会社、
ペルモビール株式会社、株式会社松永製作所、株式会社モルテン

特別講演

時間： 10:30~11:30
会場： 3階 KFCホール

[演 題]

医療・介護の変容と将来：30年間の進化を踏まえ2040年に備える

埼玉県立大学理事長・慶應義塾大学名誉教授

田中 滋 氏

公立大学法人埼玉県立大学理事長〈2018年～〉・慶應義塾大学名誉教授〈2014年～〉

【専門】地域包括ケアシステム論、医療・介護政策、医療・介護経営

【学歴】1971年慶應義塾大学商学部卒、同大学大学院商学研究科修士課程修了・博士課程単位取得退学、
米国Northwestern大学経営大学院修士課程修了

【経歴】慶應義塾大学助手〈1977年〉・助教授〈1981年〉を経て
1993年から2014年まで慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授

現在務める学会役員 ： 日本地域包括ケア学会理事長、日本介護経営学会会長、
アジア太平洋ヘルスサポート学会理事長、日本ケアマネジメント学会理事、日本老年学会理事

現在務める主な公職 ： 医療介護総合確保促進会議座長、協会けんぽ運営委員長

これまでの主な公職 ： 2023年1月まで社会保障審議会会長（兼 介護給付費分科会長・福祉部会長）

講演骨子

医療ニーズの変容

- 入院患者像
- 在宅療養と外来医療

介護ニーズの変容

- 介護分野の進化
- 四半世紀での達成

医療・介護を取り巻く環境：2040年を見据えて

- 社会保障制度に対する役割期待の変容
- 介護テックとDX

ランチョンセミナー 1

時間： 11:40～12:20
会場： 11階 Room 111

[演 題]

幸せに暮らすための食べる支援

NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長

小山 珠美 氏

NPO法人口から食べる幸せを守る会 理事長・JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院 摂食機能療法室
公立大学法人新見公立大学 臨床特命教授（口から食べる支援分野）

【経歴】国立熊本病院付属看護学校卒業（1978年）、神奈川リハビリテーション事業団（1978年）、
愛知県看護協会 認定看護師教育課程「摂食嚥下障害看護」分野 主任教員（2005年）、
社会医療法人社団 三思会 東厚木病院（2006年）、JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院（2015年）、
公立大学法人新見公立大学（2023年）

現在務める学会役員 ： 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員・教育委員、日本老年医学会

セミナー骨子

NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で取り上げられ、これまでに10,000人以上の食事介助ご実績のある摂食嚥下分野の第一人者。
重度化防止・自立支援など、ますます在宅療養の重要性が高まる昨今、口から食べる事がいかに日々の幸せに繋がるかをご講演いただく。

協賛：シーホネンス株式会社

ランチョンセミナー 2

時間： 11:40～12:20
会場： 11階 Room 113

[演 題]

介護保険福祉用具・住宅改修検討会の22年

～22年間の振り返りとこれからの福祉用具のあり方について～

NPO支援技術開発機構 理事長

山内 繁 氏

NPO法人支援技術開発機構 理事長（2005年～）、全国福祉用具専門相談員協会特別顧問（2017年～）

【学歴】1962年東京大学工学部卒、1967年同大学工業系研究科応用科学専修博士課程修了（工学博士）

【経歴】東京大学工学部助手（1967年）・同大学工学部講師（1973年）を経て、同大学工学部助教授（1975年）、
1985年から国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所障害工学研究部長、
1992年から2005年まで国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所長、
2005年から早稲田大学人間科学学術院 特任教授を経て、2010年から同大学研究推進部参与

現在務める学会役員
NPO法人支援技術開発機構 理事長、社団法人日本リハビリテーション医学会 倫理委員会 委員、
日本生活支援工学会 倫理審査企画調査委員会 委員長、全国福祉用具専門相談員協会 特別顧問

これまでの主な学会役員・各種委員会
電気化学会 会長、日本障害者リハビリテーション協会国際委員、
厚生労働省 補装具評価検討委員・第一類検討委員会 座長、
厚生労働省 介護保険福祉用具・住宅改修評価検討会 座長、
日本生活支援工学会 会長、国際標準化機構ISO TC173 SC7 議長

セミナー骨子

- 介護保険福祉用具・住宅改修検討会と主な審議内容
- 介護ロボットの採用時に問題となったこと
- 「福祉用具の有効性」、「エビデンス」の意義
- 介護ロボット開発・普及プロジェクトについて

パラマウントヘルスケア総研より

- エビデンス構築に向けた研究内容の方向性について

協賛：パラマウントヘルスケア総合研究所

第４回 福祉用具専門相談員研究大会　発表者・演題一覧

口述発表１【効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働】

座長：勝平 純司 氏　（東洋大学福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科教授）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	中石　真一路	ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社	在宅要介護高齢者の難聴の有無が、福祉用具専門相談員の福祉用具説明時に及ぼす影響 －福祉用具専門相談員のアンケート調査より－	8
2	霜出　拓邦	株式会社カクイックスウィング	オンライン上コミュニケーションツールの積極的活用による多職種連携と福祉用具導入事例 タイムリーな用具導入と楽する時短メソッド	8
3	巖　英二	パラマウントベッド株式会社	要介護者に対する特殊寝台の福祉用具貸与の有用性の調査研究 （アンケートと操作履歴を活用した特殊寝台の利用実態の調査研究）	8
4	小寺　紀之 重政　亮太	株式会社ヤマシタ	継続した在宅介護を可能とする介護リフト導入事例について	8
5	小泉　美紀	株式会社カクイックスウィング	介護老人福祉施設でのロボット導入における現状と課題	9
6	塩入　隆広	株式会社カクイックスウィング	進行性疾患の利用者への排泄支援に関する取組 （排泄問題の解決が在宅生活継続と活動性向上のカギ）	9
7	杉村　和彦	株式会社トーカイ	独居高齢者が要介護１から自立に至るまでの約12年間の記録と福祉用具の効果	9
8	池田　信也	株式会社トーカイ	冬季における歩行器の利用状況調査と環境・ニーズの相関傾向の考察	9

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

口述発表２【福祉用具安全利用に向けた取組】

座長：淵上 敬史 氏　（株式会社ウィズ　ASチーム課長、作業療法士、介護支援専門員）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	近藤　大輔	株式会社ヤマシタ	階段昇降機と転倒予防に向けた手すりの導入事例	10
2	八木　梓	株式会社ヤマシタ	「なんとかこの家での生活を続けたい」、１年間転倒せず生活できた福祉用具サービス	10
3	佐藤　聡志	株式会社同仁社	利用者状態の変化に合わせた福祉用具の提案事例	10
4	佐藤　啓孝	株式会社柴橋商会	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の利用者における福祉用具の必要性の検討	10
5	川野　友裕	株式会社カクイックスウィング	日常生活用具、住宅改修費給付制度における環境整備の事例報告 （介護保険制度での福祉用具導入との違い）	11
6	吉岡　徹	日本基準寝具株式会社	福祉用具専門相談員の定期訪問が担保する、福祉用具の安全利用	11
7	小島　みさお	国際医療福祉大学大学院	特定福祉用具販売種目購入後のモニタリングおよびメンテナンスに関する実態 －福祉用具専門相談員のアンケート調査から－	11

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

第４回 福祉用具専門相談員研究大会　発表者・演題一覧

口述発表３【経験３年未満相談員の福祉用具導入事例】

座長：畠山 浩 氏　（エイジライフ株式会社　営業部統括課長、福祉用具専門相談員）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	工藤　博	株式会社マルベリー	介護老人福祉施設における最先端ロボットを用いての社会実装 （除菌作業、夜間巡視をAI搭載人型ロボットでの代替）	12
2	石井　介樹	株式会社ヤマシタ	歩行解析アプリ『トルト』を活用した地域サロンでのフレイル予防の取り組み （福祉用具貸与事業者のフレイル予防・ADL・QOLの維持改善の取り組み）	12
3	村木　円香	株式会社フロンティア	車いすシーティングの評価とリフトを用いた疼痛へのアプローチ （安定座位姿勢の獲得を図り、食事動作の改善へ繋がった事例）	12
4	植木　涼平 松尾　峻作	株式会社ヤマシタ	進行性核上性麻痺の利用者への用具・住宅改修の段階的アプローチ	12
5	古閑　沙織	株式会社ランダルコーポレーション	転居に伴う居住環境整備の事例紹介	13
6	田中　慶之	有限会社猪木酸素	ハンドル型電動車いす導入により、独居高齢者の自立支援に繋げた事例	13
7	熊崎　峻弥	株式会社トーカイ	在宅復帰困難難と思われた難病罹患者の在宅復帰への取り組み	13

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

口述発表４【科学的な介護の実践】

座長：山下 陽子 氏（アルジョ・ジャパン株式会社　マーケティング部クリニカルトレーナー、
元厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官、作業療法士）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	中田　賢	株式会社ヤマシタ	利用者の本音（望むこと）を汲み取った提案がもたらす効果	14
2	布施　貴幸	エイジライフ株式会社	モニタリングにおける再評価とアセスメントの重要性について （FIMでの再評価によりQOL改善に繋げた事例）	14
3	生沼　拓馬	株式会社トーカイ	介護保険対象の福祉用具と対象外の福祉用具を併用・活用した自立支援に向けた取り組み （生活の質を考慮したトータルコーディネート）	14
4	山本　尚哲	株式会社カクイックスウィング	福祉用具導入による介護施設職員の腰痛改善の効果検証	14
5	小田嶋　賢	株式会社かんきょう	モニタリングにおける数値評価ツールの活用について （評価スケールや分析アプリを、経験年数の少ない社員も使いこなせる枠組み作り）	15
6	大田　健介	株式会社カクイックスウイング	評価スケールを福祉用具に取り入れたことで得られた結果と活用方法について （理学療法士経験を生かした福祉用具評価の見える化）	15
7	萩原　里咲	株式会社ヤマシタ	スライディングボードの利用による効果 （訪問介護と福祉用具貸与の導入について比較検討した事例）	15
8	吉村　忠寿	株式会社ヤマシタ	AI技術の活用による福祉用具選定の妥当性 （科学的技術の導入による福祉用具専門相談員の業務効率化を考える）	15

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

第４回 福祉用具専門相談員研究大会　発表者・演題一覧

口述発表５【地域・多職種連携・事業所の取組】

座長：髙砂 裕子 氏　（一般社団法人南区医師会　居宅介護支援センター管理者）

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	髙橋　成太	フランスベッド株式会社	コロナ禍において福祉用具専門相談員として多職種間を繋げるための取り組み	16
2	竹﨑　修一	有限会社スマイルケア	防災福祉まちづくりにおける福祉用具専門相談員が担う役割について （京都市菊浜学区での取り組みより）	16
3	上田　啓輔	株式会社マルベリー	災害時における福祉用具供給と自治体との連携 （福祉用具を通じてつながる地域）	16
4	平尾　知義	株式会社マルベリー	理解を深めるための、小・中学生に向けた福祉用具の体験型授業の実施	16
5	福田　和也	株式会社ウィードメディカル	新規訪問先での注意点、他職種への報告方法について	17
6	行田　壮一郎	株式会社ヤマシタ	「退院前支援サービス」の有効性とその多職種連携における福祉用具専門相談員の役割	17
7	山田　健太	株式会社同仁社	組織の見える化と人材育成	17
8	田村　知之	株式会社サンメディカル	お客様のために成果を発揮できる社員の育成に向けた取り組み （人材の育成と働き甲斐のある組織づくり）	17

※当日の発表順は変更となる可能性があります。予めご了承ください。

口述発表１【効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働】　演題と要旨

氏　名(所　属)	
ﾅｶｲｼ　ｼﾝｲﾁﾛｳ 中石　真一路　（ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社）	
演題 (副題)	在宅要介護高齢者の難聴の有無が、福祉用具専門相談員の福祉用具説明時に及ぼす影響 −福祉用具専門相談員のアンケート調査より−
要旨	九州の２つの県の福祉用具貸与事業所の専門相談員へアンケート調査を実施、127 人から回答を得た。難聴の在宅要介護者に関わった経験は、約９割が「ある」と答えた。難聴のある在宅要介護者への対応として、「大きな声で話す」「耳元で話す」「家族を通じて話す」が上位であった。また、約９割が難聴により「福祉用具の説明時にうまく伝わらない」や「間違った利用方法につながってしまう」と答えた。難聴の在宅要介護者の理解や対応方法に関する取り組みについては、すべてが必要であると回答し福祉用具貸与事業所における対応が望まれる。

氏　名(所　属)	
ｼﾓｲﾃﾞ　ﾋﾛｸﾆ 霜出　拓邦　（株式会社カクイックスウィング）	
演題 (副題)	オンライン上コミュニケーションツールの積極的活用による多職種連携と福祉用具導入事例 タイムリーな用具導入と楽する時短メソッド
要旨	オンライン上のコミュニケーションツール(MCS)を活用し、リアルタイムな利用者情報を効率よく収集することで可能になった終末期の利用者への迅速なエアマット導入事例を報告する。

氏　名(所　属)	
ｲﾜｵｴｲｼﾞ　ｻｶﾓﾄｲｸｵ　ﾐｳﾗｼｮｳｼﾞ　ｲﾏﾀﾞﾕﾀｶ　ﾂｼﾞﾓﾄｶｽﾞﾐ　ｺｲｹｷﾖﾀｶ　ﾊﾂｶﾘﾀｸﾛｳ　ﾌﾅｺｼｹｲｽｹ　ｼﾝﾑﾗｶｲﾄ　ﾆｼﾑﾗｼﾞｭﾝｺ 巖英二、坂本郁夫、三浦正二、今田豊、辻本和美、小池清貴、初雁卓郎、舟越敬介、新村魁斗、西村潤子 （パラマウントヘルスケア総合研究所）	
演題 (副題)	要介護者に対する特殊寝台の福祉用具貸与の有用性の調査研究 （アンケートと操作履歴を活用した特殊寝台の利用実態の調査研究）
要旨	新規で特殊寝台を利用されるご利用者に、導入前後にご利用者とその家族へアンケートを行い、かつ利用された特殊寝台の操作履歴を取得し、アセスメントから課題とした日常生活における利用者の基本動作等が特殊寝台導入により改善したか、またその使用方法について分析した。また利用者の身体状況と特殊寝台各機能の操作履歴との関連性を分析することで特殊寝台の導入効果を明らかにし、利用者本人の自立の促進、介護者の負担軽減を含む QOL の向上といった視点で特殊寝台が果たす利用者への効果を検討する。

氏　名(所　属)	
ｺﾃﾗ　ﾉﾘﾕｷ　ｼｹﾞﾏｻ ﾘｮｳﾀ 小寺　紀之　重政　亮太　（株式会社ヤマシタ）	
演題 (副題)	継続した在宅介護を可能とする介護リフト導入事例について
要旨	要介護者を家族や介護職の方が持ち上げて介助を行う場面は多い。終わりの読めない介護において力任せの身体介助は双方の負担となり、その繰り返しは在宅生活継続の均衡を崩す要因となりかねない。介護リフトを相談導入、また適切に利用することでこうした懸念を取り除けた事例について報告、共有したい。

氏　名(所　属)	
ｺｲｽﾞﾐ ﾐｷ 小泉　美紀　（株式会社カクイックスウィング）	
演題 （副題）	介護老人福祉施設でのロボット導入における現状と課題
要旨	高齢者施設の中でも重度化が顕著である特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）において、実際の介護ロボット・機器導入の実態を把握し、介護ロボット導入に向けた条件・問題点の構造を明らかにすることを目的とする。

氏　名(所　属)	
ｼｵｲﾘ　ﾀｶﾋﾛ 塩入　隆広　（株式会社カクイックスウィング）	
演題 (副題)	進行性疾患の利用者への排泄支援に関する取組 （排泄問題の解決が在宅生活継続と活動性向上のカギ）
要旨	脊髄小脳変性症を発症され、進行していく身体状況の不安に直面した本人とご家族の抱える不安や今後の介護に対する負担を少しでも軽減できるよう、多職種と連携したケアが必要である。 また在宅生活維持と排泄問題の結びつきや福祉用具選定時における本人の尊厳の重要性や自尊心を保てば在宅生活が長く続き活動量も増えるかを考察する。 少しでも長く在宅生活が継続できるように、排泄動作に焦点を当て介入した 1 例の振り返りを行う。

氏　名(所　属)	
ｽｷﾞﾑﾗ ｶｽﾞﾋｺ 杉村　和彦　（株式会社トーカイ）	
演題 (副題)	独居高齢者が要介護 1 から自立に至るまでの約 12 年間の記録と福祉用具の効果
要旨	賃貸住宅に住む独居高齢女性が転倒骨折後に介護保険を申請し、福祉用具貸与・販売のサービスを受けながら、約 12 年後に自立に至った。その 12 年間のアセスメント記録を基に、利用者との関わりを振り返り、福祉用具貸与の効果を考察する。

氏　名(所　属)	
ｲｹﾀﾞ　ｼﾝﾔ 池田　信也　（株式会社トーカイ）	
演題 (副題)	冬季における歩行器の利用状況調査と環境・ニーズの相関傾向の考察
要旨	歩行器（車）の選定される傾向について平地・山地という環境が選定に影響を及ぼしているかを可住地面積比率、総面積人口密度により定量的に分析し報告する。

口述発表２【福祉用具安全利用に向けた取組】　演題と要旨

氏　名(所　属)	
ｺﾝﾄﾞｳ ﾀﾞｲｽｹ 近藤　大輔　（株式会社ヤマシタ）	
演題 (副題)	階段昇降機と転倒予防に向けた手すりの導入事例
要旨	要支援２の利用者。２階建住居で生活、腰痛・膝痛があり当初は手すりに掴まり階段昇降できていたが、筋力低下進行、痛みの増強により階段昇降が難しくなる。本人、ご家族、ケアマネジャーと相談の上、階段昇降機の導入を行った事例を報告する。

氏　名(所　属)	
ﾔﾂｷﾞ　ｱｽﾞｻ 八木　梓　（株式会社ヤマシタ）	
演題 (副題)	「なんとかこの家での生活を続けたい」、１年間転倒せず生活できた福祉用具サービス
要旨	今回、関節リウマチを抱える利用者が初めて介護保険サービスを利用するタイミングから関わる機会があった。本人の希望を第１にケアマネジャー・理学療法士・作業療法士と環境調整を提案実施し、その都度利用者自身が決断しながら転倒なく独居生活を１年間継続することができた。介護保険の基本である自立支援、利用者本位でのサービス提供をうまく実行できた事例である。

氏　名(所　属)	
ｻﾄｳ　ｻﾄｼ 佐藤　聡志　（株式会社同仁社）	
演題 (副題)	利用者状態の変化に合わせた福祉用具の提案事例
要旨	福祉用具の貸与により利用者本人や家族の不安が軽減され、自立への意識が高まる。 転倒により自立での自宅内の歩行や玄関の段差昇降に不安を感じ、ベッドやソファで過ごすことが多くなっていた。福祉用具、住宅改修により環境の整備をすること不安が解消され、以前のように自宅内の移動ができるようになった。 福祉用具の利用については抵抗もあったが、便利さを感じることで気持ちも前向きになった。 体力、筋力の低下や環境の変化に合わせた福祉用具の提案を行った事例を報告する。

氏　名(所　属)	
ｻﾄｳ　ﾀｶﾅﾘ 佐藤　啓孝　（株式会社柴橋商会）	
演題 (副題)	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の利用者における福祉用具の必要性の検討
要旨	変化の著しい進行性の難病である筋萎縮性側索硬化症（ALS）を患った利用者の体調変化に合わせた福祉用具の導入から、その必要性を考えるとともに、福祉用具導入による利用者家族の介護負担の軽減について報告する。

氏　名(所　属)	
ｶﾜﾉ　ﾄﾓﾋﾛ 川野　友裕　（株式会社カクイックスウィング）	
演題 (副題)	日常生活用具、住宅改修費給付制度における環境整備の事例報告 (介護保険制度での福祉用具導入との違い)
要旨	頚椎後縦靭帯骨化症により体幹機能障害一種二級のご利用者様がアパートへ引っ越し。一人暮らし開始に合わせて日常生活給付等事業での特殊寝台、入浴補助用具の導入、住宅改修費給付制度による手すり設置を行った事例を報告する。

氏　名(所　属)	
ﾖｼｵｶ　ﾄｵﾙ 吉岡　徹　（日本基準寝具株式会社）	
演題 (副題)	福祉用具専門相談員の定期訪問が担保する、福祉用具の安全利用
要旨	福祉用具の安全利用のため、福祉用具専門相談員が行うモニタリングは、電話等ではなく、直接在宅に赴き、用具の状態・安全性に関して確認することの必要性を証明するための調査・分析について、報告を行う。

氏　名(所　属)	
ｺｼﾞﾏ　ﾐｻｵ 小島　みさお　（国際医療福祉大学大学院）	ﾋｶﾞｼﾊﾀ　ﾋﾛｺ 東畠　弘子　（国際医療福祉大学大学院）
演題 (副題)	特定福祉用具販売種目購入後のモニタリングおよびメンテナンスに関する実態 －福祉用具専門相談員のアンケート調査から－
要旨	特定福祉用具販売の購入後のモニタリングやメンテナンス等の実態を把握し、課題を明らかにする目的で、東京都内の福祉用具貸与事業所の福祉用具専門相談員への郵送自記式質問紙調査をおこなった。販売種目別では、モニタリングおよびメンテナンス実施は、ポータブルトイレが最多であった。特定福祉用具販売のモニタリング・メンテナンスの必要性では、「どちらも必要」は30.7%、「どちらも不要」との回答は23.4%であった。

口述発表３【経験３年未満相談員の福祉用具導入事例】　演題と要旨

氏　名(所　属)	
ｸﾄﾞｳ　ﾋﾛｼ 工藤　博　（株式会社マルベリー）	
演題 (副題)	介護老人福祉施設における最先端ロボットを用いての社会実装 (除菌作業、夜間巡視を AI 搭載人型ロボットでの代替)
要旨	少子高齢化に伴う課題として、施設職員の人手不足、コロナ禍での施設内除菌作業等の職員負担が増加している。この対策のため単純作業と専門性が求められる仕事とを分類し、単純作業の一部を AI 搭載人型ロボットに置換えることで職員の時間を創出し、その時間を職員の専門性を活かしたサービスの提供に注力して頂くことで、施設全体の負荷を軽減できるかを検証する。実現できれば将来的には離職率の低い職場環境の実現が可能となると考え、取り組んだ。

氏　名(所　属)	
ｲｼｲ　ﾕｷﾑﾗ 石井　介樹　（株式会社ヤマシタ）	
演題 (副題)	歩行解析アプリ『トルト』を活用した地域サロンでのフレイル予防の取り組み （福祉用具貸与事業者のフレイル予防・ADL・QOL の維持改善の取り組み）
要旨	地域サロンでの勉強会・体験会を開催し、フレイル予防の観点から歩行解析アプリ　『トルト』を使って、フレイル予防の観点から科学的アプローチを行うことで、身体状況の把握・変化を察知し、必要な福祉用具の提供ができるようにする。

氏　名(所　属)	
ﾑﾗｷ　ﾏﾄﾞｶ 村木　円香　（株式会社フロンティア）	
演題 (副題)	車いすシーティングの評価とリフトを用いた疼痛へのアプローチ (安定座位姿勢の獲得を図り、食事動作の改善へ繋がった事例)
要旨	利用者は 90 代女性、関節の拘縮・変形があり、臀部の痛みや覚醒不良により座位耐久性の低下を生じた。食事は、リクライニング車いすを使用し 3 食摂取していたが、時間の経過により不適合姿勢の出現、覚醒不良により食事動作は半介助を要し、移乗時は持ち上げ介助により疼痛を生じていた。ベッド上のポジショニング、車いすシーティング、移乗方法といった複合的な観点からアプローチし、疼痛の軽減と車いす座位姿勢耐久性の向上がみられたため、報告する。

氏　名(所　属)	
ｳｴｷ　ﾘｮｳﾍｲ　　ﾏﾂｵ　ｼｭﾝｻｸ 植木 涼平　　松尾 俊作　（株式会社ヤマシタ）	
演題 (副題)	進行性核上性麻痺の利用者への用具・住宅改修の段階的アプローチ
要旨	進行性核上性麻痺は、治療法の確立されていない指定難病である。昨年度から、この難病に罹患された利用者に対して、病気の進行に合わせて段階的にアプローチを行った事例を報告する。

氏　名(所　属)	
ｺｶﾞ　ｻｵﾘ 古閑 沙織　　（株式会社ランダルコーポレーション）	
演題 (副題)	転居に伴う居住環境整備の事例紹介
要旨	転居により生活環境が変わった利用者に対し、環境や身体状況に合わせた福祉用具の選定、住宅改修、福祉用具の購入などを総合的に活用した居住環境整備を行う機会を得た。 利用者の生活課題の捉え方や、サービスの優先順位、他職種連携などを経験することができたため、ここに報告する。

氏　名(所　属)	
ﾀﾅｶ　ﾖｼﾕｷ 田中　慶之　（有限会社猪木酸素玉島店）	
演題 (副題)	ハンドル型電動車いす導入により、独居高齢者の自立支援に繋げた事例
要旨	自立した生活のために、ハンドル型電動車いすを検討、導入した A 様の、導入に向けた取り組みを報告する。

氏　名(所　属)	
ｸﾏｻﾞｷ ｼｭﾝﾔ 熊崎　峻弥　（株式会社トーカイ）	
演題 (副題)	在宅復帰困難難と思われた難病罹患者の在宅復帰への取り組み
要旨	本人と家族は在宅生活を希望しているが病院より退院困難と言われている多系統萎縮症の方に対し、福祉用具による環境整備の実施と他職種連携を実施する事で在宅復帰を実現した事例を報告する。

口述発表４【科学的な介護の実践】　演題と要旨

氏　名(所　属)	
ﾅｶﾀ　ｹﾝ 中田　賢　（株式会社ヤマシタ）	
演題 (副題)	利用者の本音（望むこと）を汲み取った提案がもたらす効果
要旨	利用者の本音(デマンド)に沿った提案は ADL・在宅生活期間に好影響を及ぼす。 本当の気持ち(デマンド)を把握するためのヒアリングマニュアルを整理し複数の利用者支援で実践した結果、実際に ADL が改善した上に当初の想定より在宅生活期間が延伸した事例を報告する。

氏　名(所　属)	
ﾌｾ　ﾀｶﾕｷ 布施　貴幸　（エイジライフ株式会社）	
演題 (副題)	モニタリングにおける再評価とアセスメントの重要性について (FIM での再評価により QOL 改善に繋げた事例)
要旨	疾病による、トイレ便座からの立ち上がりに困難なケースにおいて、モニタリング時のアセスメントで、用具から住宅改修への住環境整備の導入を実施した結果、QOL 向上に繋がった事例を報告する。FIM 評価における改善を評価し、人の生活感覚、好みのような不明瞭なものまでをアセスメントし提案に生かせるための共有である。

氏　名(所　属)	
ｵｲﾇﾏ　ﾀｸﾏ 生沼　拓馬　（株式会社トーカイ）	
演題 (副題)	介護保険対象の福祉用具と対象外の福祉用具を併用・活用した自立支援に向けた取り組み （生活の質を考慮したトータルコーディネート）
要旨	利用者の希望を叶える手段として自費を併用した環境整備の実施について、脊髄小脳変性症の進行が早い女性（68 歳）の介護保険申請時から１年間の関わりを通じて報告する。

氏　名(所　属)	
ﾔﾏﾓﾄ　ﾅｵｻﾄ 山本　尚哲　（株式会社カクイックスウィング）	
演題 (副題)	福祉用具導入による介護施設職員の腰痛改善の効果検証
要旨	本取組みでは、施設職員の腰痛軽減を目的に導入した福祉用具がどの程度の効果を示したのか、アンケートを作成し検証した。アンケートを作成し、腰痛症状を有する９名を対象に２回の調査を実施。結果痛みや生活動作に改善を認めるものの、悪化した職員の考察が不十分であったため、調査方法や対象者の見直しを行う等、取組みの精度を高める事でより良い施設支援に繋げていきたい。

氏　名(所　属)	
ｵﾀﾞｼﾏ　ｻﾄﾙ 小田嶋　賢　（株式会社かんきょう）	
演題 (副題)	モニタリングにおける数値評価ツールの活用について （評価スケールや分析アプリを、経験年数の少ない社員も使いこなせる枠組み作り）
要旨	評価スケールや分析アプリなど数値化された評価法を用いる事で、科学的な福祉用具サービスを実践する事が推奨されている。私の所属する事業所でも数値評価ツールを導入したが、経験年数が少ない相談員ほど活用法が分からず、使用頻度が低いという事が分かった。数値評価ツール自体は誰もが科学化された評価が出来る物であるが、それを誰もが活用出来る枠組みが必要だと私は考えた。そのため、数値評価ツールの活用法を明確化した事業所内マニュアルを作成した。マニュアルの作成過程から導入した結果を報告する。

氏　名(所　属)	
ｵｵﾀ　ｹﾝｽｹ 大田　健介　（株式会社カクイックスウィング）	
演題 (副題)	評価スケールを福祉用具に取り入れたことで得られた結果と活用方法について （理学療法士経験を生かした福祉用具評価の見える化）
要旨	今回、福祉用具の選定やモニタリング時に複数の簡易的評価方法を用いて利用効果を具体的な数値で示す取組を試行した。そこで得られた評価結果をもとに今後の活用方法について報告する。

氏　名(所　属)	
ﾊｷﾞﾜﾗ ﾘｻ 萩原　里咲　（株式会社ヤマシタ）	
演題 (副題)	スライディングボードの利用による効果 （訪問介護と福祉用具貸与の導入について比較検討した事例）
要旨	ご利用者様の身体状況の低下に伴い、主介護者であるご主人様の介護負担が増えている。 ケアプランに沿って多職種で連携をとりながら、ご主人様の希望である「出来るだけ長く 2 人で暮らす」ことが出来るよう、新しくサービスを提供した場合の回数や費用、身体負担等の比較検討を行い、スライディングボードを導入した事例を報告する。

氏　名(所　属)	
ﾖｼﾑﾗ　ﾀﾀﾞﾄｼ 吉村　忠寿　（株式会社ヤマシタ）	
演題 (副題)	AI 技術の活用による福祉用具選定の妥当性 （科学的技術の導入による福祉用具専門相談員の業務効率化を考える）
要旨	近年、高度化する AI 技術は医療や介護の現場でも急速に取り入れられている。今後この技術が更に進歩すれば、福祉用具専門相談員の業務のあり方がどのように変化するかを考え、検証データをもとにその未来を予測する。

口述発表５【地域・多職種連携・事業所の取組】　演題と要旨

氏　名(所　属)	
ﾀｶﾊｼ　ﾏｻﾄ 髙橋　成太　（フランスベッド株式会社）	
演題 (副題)	コロナ禍において福祉用具専門相談員として多職種間を繋げるための取り組み
要旨	近年コロナウィルスの影響で、以前であれば病院にて開催、実施されていた退院前カンファレンス、面会、家屋評価が激減した。病床逼迫や面会制限により退院させたい病院側と在宅復帰を希望する患者、家族側の意向も合致し、早期に退院する患者が増える中、調整がおぼつかないまま退院し、生活基盤が不安定なまま在宅生活を迎える利用者の増加がみられた。こうした背景の中でスムーズな退院調整と退院時の環境面を正確に整える点はより重要なポイントであり、退院後のスムーズなサービス調整を進めるにあたって一番必要な核の部分になる。その核の点を退院までに正確に構成するために、退院調整に取り組んだ事例を報告する。

氏　名(所　属)	
ﾀｹｻﾞｷ ｼｭｳｲﾁ 竹﨑　修一　（有限会社スマイルケア）	
演題 (副題)	防災福祉まちづくりにおける福祉用具専門相談員が担う役割について （京都市菊浜学区での取り組みより）
要旨	災害発生時に在宅の認知症高齢者に対して、どういった事柄に注意をして避難誘導を行うべきかなど、地域の防災福祉まちあるきイベントを通じて行った取り組みを報告する。

氏　名(所　属)	
ｳｴﾀﾞ　ｹｲｽｹ 上田　啓輔　（株式会社マルベリー）	
演題 (副題)	災害時における福祉用具供給と自治体との連携 （福祉用具を通じてつながる地域）
要旨	災害時に地域で必要とされている福祉用具のシステムを構築する活動内容を紹介する。

氏　名(所　属)	
ﾋﾗｵ　ﾄﾓﾉﾘ 平尾　知義　（株式会社マルベリー）	
演題 (副題)	理解を深めるための、小・中学生に向けた福祉用具の体験型授業の実施
要旨	高齢者や障がい者が住みやすい環境をつくるため、社会福祉協議会と連携して行った具体的な取り組みと成果、課題を報告する。

氏　名(所　属)	
ﾌｸﾀﾞ　ｶｽﾞﾔ 福田　和也　（株式会社ウィードメディカル）	
演題 (副題)	新規訪問先での注意点、他職種への報告方法について
要旨	初めて伺うご家庭では、身体状況、家族構成、生活環境をしっかり確認することで、より適した福祉用具を選定できる。その内容を関係各所へ的確に伝え、連携を図るために行っている方法を報告する。

氏　名(所　属)	
ｷﾞｮｳﾀﾞｿｳｲﾁﾛｳ 行田　壮一郎　（株式会社ヤマシタ）	
演題 (副題)	「退院前支援サービス」の有効性とその多職種連携における福祉用具専門相談員の役割
要旨	「退院前支援サービス」を利用した事例を紹介し、その有効性を検討する。「退院前支援サービス」とは、在宅で使用予定の福祉用具を、入院中からリハビリや一時外泊時に使用可能にするサービスである。この事例を通じて、利用者本人の ADL や QOL の維持・改善、在宅復帰に対する家族の不安や介護負担の軽減、適正な家屋評価や住環境整備において退院前支援が有効であることが示された。また退院前支援には多職種の連携と信頼のネットワークが必要不可欠であり、この連携において、福祉用具専門相談員は各職種の間を繋ぎ取り持つ役割を担えることが分かった。

氏　名(所　属)	
ﾔﾏﾀﾞ　ｹﾝﾀ 山田　健太　（株式会社同仁社）	
演題 (副題)	地域・多職種連携・事業所の取組 （組織の見える化と人材育成）
要旨	会社、組織の運営において人材育成は核となる。社員が育つための育成、管理の可視化を図り、能力向上やモチベーションの維持が必要である。 人が育つことは、会社が育つと考え、管理者や経営者ではなく現場に立つ社員が真逆の立場から人材育成について考え実践し検証した成果の一部を報告する。

氏　名(所　属)	
ﾀﾑﾗ　ﾄﾓﾕｷ 田村　知之　（株式会社サンメディカル）	
演題 (副題)	お客様のために成果を発揮できる社員の育成に向けた取り組み （人材の育成と働き甲斐のある組織づくり）
要旨	仕事を楽しむ事のできる生産性の高い福祉用具専門相談員を育成するための取り組みを報告する。

老健事業特別セミナー　演題と要旨

氏　名(所　属)	
ﾔｻﾞﾜ　ﾕｶﾘ 谷澤　由香理　（エム・アール・アイ　リサーチアソシエイツ株式会社）	
演題 (副題)	福祉用具貸与における利用実態と利用者の状態等の要因に関する調査研究事業
要旨	令和３年度介護報酬改定に関する審議報告において、介護保険制度における福祉用具の貸与・販売種目のあり方について、利用実態を把握しながら、利用者の安全性の確保等の観点から今後検討していくべきと指摘されたところである。これを踏まえ厚生労働省では「介護保険制度における福祉用具貸与・販売種目のあり方検討会」（以下、「あり方検討会」）を開催し、議論が行われている。 本事業では、「あり方検討会」で特に議論がなされている、要介護度に関係なく給付が可能な種目を対象に、福祉用具貸与の長期利用者と短期利用者の状態把握・比較を行った。 本発表では、調査結果の概要及び今後の課題について報告する。

老健事業報告　演題と要旨

氏　名(所　属)	
ｲﾄｳ　ﾋﾛﾅﾘ 伊藤　広成　（一般社団法人日本福祉用具供給協会）	
演題 (副題)	介護保険における福祉用具の利用安全及びサービスの質の向上に資する事業所の体制を強化するための調査研究事業
要旨	福祉用具の貸与に当たっては、貸与開始時やモニタリング時に利用者や介護者に対して適切な指導やアドバイスを行うことで事故やヒヤリ・ハットの発生を少なくすることが可能であり、そのためには、事故やヒヤリ・ハットが起こる要因等を知っておくことが重要である。 本事業では、福祉用具に関する事故やヒヤリ・ハット事例を収集し、事故防止に資する情報の分析を行い、福祉用具専門相談員の知識や技術等、関係者との連携方法等についてまとめた上で、「福祉用具の利用安全のための福祉用具貸与事業所の体制・多職種連携を強化するための手引き」を作成した。 本発表では、これら成果物の概要について報告する。

氏　名(所　属)	
ﾌｸｼﾏ　ﾄﾓﾋｺ 福島　伴彦　（一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会）	
演題	福祉用具貸与等におけるサービスの見える化及びサービス向上に資する PDCA 推進に関する研究事業
要旨	令和 3 年度介護報酬改定に関する審議報告では、「介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進」の観点から、居宅介護支援を除く全てのサービスに対して、CHASE・VISIT（現 LIFE）を活用した計画の作成や、事業所単位での PDCA サイクルの推進、ケアの質の向上の取組を推奨することが示された。 本調査では、令和３年度老健事業で作成したふくせん改編様式を試用した貸与事例のデータを蓄積するとともに、そのサービス内容を分析し、利用者の状態に応じて福祉用具を選定する際の根拠の明確化、福祉用具専門相談員のサービス提供における行動や評価の視点、多職種連携等のプロセスの見える化を行い、PDCA サイクル推進につなげることを目的とした調査を実施した。 本発表では、調査分析結果および今後の課題について報告する。